

行政視察 長 浜 成 仁 議員

日時: 令和5年7月31日(月)～8月2日(水)

場所: 北海道佐呂間町、北海道網走市

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～羽田空港第1・第2ターミナル駅	鉄道	往	111.7	1,570	1,050			2,620
羽田空港～女満別空港	飛行機	往				29,770		29,770
女満別空港～北見バスターミナル	バス	往					1,200	1,200
北見駅～遠軽駅	鉄道	往	60.2	1,490				1,490
遠軽厚生病院～佐呂間バスターミナル	バス	往復					1,000	1,000
遠軽駅～網走駅	鉄道	往	113.2	2,860	2,360			5,220
網走駅前～東3丁目(網走市)	バス	往復					420	420
網走駅前～女満別空港	バス	復					1,050	1,050
女満別空港～羽田空港	飛行機	復				30,180		30,180
羽田空港第1・第2ターミナル駅～佐野駅	鉄道	復	111.7	1,570	1,050			2,620
計				7,490	4,460	59,950	3,670	75,570

宿泊料@16,500×2泊	33,000 円
交通費	75,570 円
(うち航空運賃)	59,950 円)
計	108,570 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 岩上 裕一

※金額や発行元などが、枠内に収まるよう、また重ならないように添付してください。

行政視察 長 浜 成 仁 議員

日時: 令和6年2月5日(月)～2月7日(水)

場所: 鹿児島県始良市、鹿児島県枕崎市

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野～羽田空港	鉄道	往	111.7	1,650	1,050			2,700
羽田空港～鹿児島空港～羽田空港	飛行機	往復	1,934.0			38,337		38,337
鹿児島空港～帖佐	バス	往					480	480
帖佐～鹿児島中央	鉄道	往	20.3	480				480
鹿児島中央駅～測候所下	バス	往					1,440	1,440
枕崎～鹿児島中央駅	バス	復					1,440	1,440
鹿児島中央～鹿児島空港	バス	復					1,400	1,400
羽田空港～佐野	鉄道	復	111.7	1,650	1,050			2,700
								0
計				3,780	2,100	38,337	4,760	48,977

宿泊料@16,500×2泊	33,000 円
交通費	48,977 円
(うち航空運賃)	38,337 円)
計	81,977 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 岩上 裕

※金額や発行元などが、枠内に収まるよう、また重ならないように添付してください。

令和 6 年 4 月 1 日

佐野市議会議長 川嶋 嘉一 様

政友みらい 行政視察報告

議員名 長浜 成仁

1, 期日：令和 5 年 7 月 3 1 日（月）～8 月 2 日（水）（2 泊 3 日）

2, 視察地及び視察事項

（1）北海道佐呂間町「田中正造関係の歴史を通したまちづくり」について（7 月 3 1 日）

（2）北海道網走市「農産物のブランド化」について（8 月 1 日）

3, 参加議員

小暮博志、山菅直己、川嶋嘉一、慶野常夫、神宮次秀樹、菰原政夫、長浜成仁

4, 視察報告

（1）佐呂間町「田中正造関係の歴史を通したまちづくり」について

①佐呂間町の概要

- ・人口：4, 6 8 9 人（令和 5 年 3 月末現在）
- ・面積：4 0 4. 9 4 km²
- ・議員定数：1 0 人
- ・議員報酬：1 8 5, 0 0 0 円（月額）
- ・政務活動費：—
- ・佐呂間町は、オホーツク管内のほぼ中央部に位置し、東に北見市常呂、西に北見市留辺蕊、遠軽町生田原、湧別町、南に北見市が接しており、北は一帯がサロマ湖に面している。一次産業が盛んで、農業ではサロマ和牛やサロマ豚、町のキャラクターになっている南瓜が知られており、また、漁業ではホタテや牡蠣等が特産品となっている。明治 4 4 年 4 月、栃木県から足尾銅山鉱毒事件問題に端を発した開拓入植があった。平成 2 5 年 1 0 月に本市で開催された田中正造没後 1 0 0 年式典には佐呂間町から 7 名が参加した（栃木地区：入植者三代目 2 名・自治会 3 名、町職員 2 名）。平成 2 6 年には、町民センターに歴史資料をまちづくりに活かす拠点づくりとして、田中正造や入植等の資料を常設で展示している展示室が設置された。佐呂間町には「栃木」がある。

②視察内容

今回は、足尾銅山鉱毒事件問題で実際に栃木県から入植した栃木地区にて武田温友町長より当地の説明（栃木開基百周年記念之碑、天台宗日光山多聞寺等）を受け、その後、町民センターにて佐藤昭男議長をはじめとする関係町議会議員の同席があり、「ふたつの栃木」と題した田中正造関係の歴史を通したまちづくりについて詳細説明を受けた。詳細説明後は同施設にある展示室に移動し、武田温

友町長より展示室が設置された経緯や展示物の説明を受けた。

佐呂間町が行っている取組として町民センターでの常設展示の他、教育委員会が作成している小学校3・4年社会科副読本の中で、栃木県からの入植や栃木という地名が付けられた歴史を分かりやすく解説している。

武田温友町長や今回同席された町議会議員の方々からは、歴史を次世代に語り継いでいく重要性に触れながら、町内外問わず多くの方々に栃木の歴史を知ってもらえるような取組を展開していきたい旨の話があった。

(2) 網走市「農産物のブランド化」について

①網走市の概要

- ・人口：33,277人（令和4年3月31日住民基本台帳人口）
- ・面積：471.00km²
- ・議員定数：16人
- ・議員報酬：380,000円（月額）
- ・政務活動費：会派の所属議員数に年額24万円を掛けた額
- ・網走市は、オホーツク海に面しており、1年を通じて晴天が多く、年間降水量・降雪量は少ない地域である。また、沿岸地帯では、冬期の特殊減少として毎年1月中旬頃より流水が到来し、観光客が多く訪れる。網走市は、土地利用型作物の栽培に適するなだらかな火山灰性の丘陵台地であり、耕地面積は道内179市町村で第19位となっており、広大な耕作地を有している。基幹3品として、麦類（小麦、ビール大麦）、馬鈴しょ、てん菜（ビート）がある。

②視察内容

今回は、網走市役所庁舎内の市議会会議室にて担当職員より当該事項の説明を受けた。

網走市内の農家戸数は年々減少しており、平成10年は504戸であったが、令和3年は314戸となっている。前述の通り、網走市は広大な耕作地を有しており、その中で経営の安定化を目的として数戸の農家が大型農業機械等を共同所有し、共同作業を行う「営農集団の組織化」が進んでいる（現在、市内36の営農集団が組織されている）。大型機械を導入した大規模共同営農形態の取組を先進的に行った地域である。

道内有数の麦類の生産地として基盤整備を重点的に行っており、日本最大級の麦類乾燥調製貯蔵施設（品質の向上・均一化、物流コストの合理化を行い、安定供給が可能）や小麦船積センター（オホーツク管内産小麦の8割を集約、物流コスト軽減）を整備した。

農産物のブランド化として地元農産物の高付加価値化の研究を目的とした網走市高次加工研究所が昭和62年に設立され、野菜ペーストや大麦若葉青汁、またたび製品が主な研究成果として挙げられ、同研究所は平成28年度に閉鎖となった。現在の取組としては、年間2回から3回収穫が可能な行者菜（行者ニンニクとニラを交配させた新野菜）や健康面での付加価値が高いオホーツク網走産長いも、3等級以上の肉質に限られているオホーツクあばしり和牛のブランド化の推進に力を入れている旨の話があった。

・北海道佐呂間町での行政視察の様子



・北海道網走市での行政視察の様子



5. 所感

北海道佐呂間町の「田中正造関係の歴史を通したまちづくり」については、上述の通り、明治44年4月の足尾銅山鉱毒事件問題に端を発した開拓入植から今に続く歴史のつながりを再確認し、本市と佐呂間町とのつながりをあらゆる分野でさらに深化させたいとの思いから行った視察である。平成25年10月に本市で開催された田中正造没後100年式典には、佐呂間町から7名の参加があり、また平成30年7月には本市の県立高校生徒8名がフィールドワークとして佐呂間町を訪問しており、両市の交流は活発に行われている。私自身も北海道に住んでいた際に何度も佐呂間町を訪れ、両市の関係の深さを認識しているところである。佐呂間町では、町民センターに常設の展示室が設けられており、また小学校3・4年社会科の副読本の中に「もうひとつの「栃木」と題して歴史の解説を行う等の取組を展開している。本市においても田中正造をはじめ、佐呂間町とのつながりを含む様々な歴史についてさらに多くの市民に知ってもらうような取組やあらゆる分野での交流の深化の必要性を再認識した次第である。

北海道網走市の「農産物のブランド化」については、農家戸数が減少している昨今、どのような取組で農業を維持しながら発展させているか、また、ブランド化への道筋を学ぶべく行った視察である。本市では、経営の安定と規模拡大を図ったり、農地整備を促進して生産性の向上や良好な農村環境の形成を図るべく様々な取組を展開しているが、網走市においては「営農集団の組織化」がかなり進んでいる

印象を受けた。上述の通り、網走市の農家戸数は年々減少傾向にあり、その中で経営の安定化を目的として数戸の農家が大型農業機械等を共同保有している点に注目した。本市では、いちごの栽培を関係機関と連携、奨励して作付面積が県内1位となっており、また、農地整備の促進や農地の集積・集約を一部の地区で図っているところである。今回の視察で受けた説明は本市に持ち帰って、活かせるところがあるのではないかと感じたところである。

今回の視察において学んだことをしっかりと今後の議員活動に活かし、少しでも市政発展のために役立てていけるように努力をしていきたいと思う。

令和6年4月1日

佐野市議会議長 川嶋 嘉一 様

政友みらい 行政視察報告

議員名 長浜 成仁

1, 期日：令和6年2月5日（月）～2月7日（水）（2泊3日）

2, 視察地及び視察事項

（1）鹿児島県始良市「モラリティ・インプルーブメント推進事業」について（2月5日）

（2）鹿児島県枕崎市「移住定住事業（住もう！まくらざき）」について（2月6日）

3, 参加議員

小暮博志、山菅直己、川嶋嘉一、慶野常夫、神宮次秀樹、菰原政夫、長浜成仁

4, 視察報告

（1）始良市「モラリティ・インプルーブメント推進事業」について

①始良市の概要

- ・人口：77,954人（令和5年4月1日現在）
- ・面積：231.25km²
- ・議員定数：24人
- ・議員報酬：303,000円（月額）
- ・政務活動費：360,000円（年額）
- ・始良市は、薩摩半島と大隅半島の集束点、鹿児島県のほぼ中央に位置し、東西に国道10号、JR日豊本線が通り、九州自動車道と東九州自動車道が合流する加治木ジャンクションや始良インターチェンジがあり、令和3年には桜島スマートインターチェンジが全面開通する等、交通の要所として発展している。この交通網により鹿児島県内を概ね2時間で結ぶことから、物流の拠点として企業の注目を集めている。また、交通網の利便性の良さから鹿児島市や霧島市のベッドタウンとして発展し、近年では始良市で子育てを考える世帯の注目を集め、鹿児島県内でも唯一人口増加の市となっている。

②視察内容

今回は、始良市始良公民館にて小倉寛恒教育委員会教育長が同席され、担当職員より説明を受けた。

「モラリティ・インプルーブメント推進事業」とは、子どもたちの道徳性を育んでいく中で、確かな自立へ導き、社会（公共）に貢献できる人づくりを社会全体（学校・家庭・地域）で協働して取り組んでいこうとする事業で、始良市子育て基本条例（学校、家庭、地域、それぞれの役割と責任が明

記されている）を具体化するものである。モラリティは道徳性、インプルーブメントは向上を意味している。

挨拶を交わす姿、思いやりや感謝の気持ちを伝え合う姿、ルールやマナーを守る姿、地域行事に参加する姿を大切にすることが、自分自身がより良く成長することや始良市が良くなることに繋がるとの考え方のもと、学校では「道徳の時間」を充実させる指導方法や資料の開発、研究実践校による家庭・地域と協働した取組の推進、学校・家庭・地域が協働して子どもの道徳性を育むためにどのような取組が必要かを考える協議会「モラリティ・インプルーブメント・ミーティング（MIM）」を設置している。

鹿児島県内でも唯一人口が増加している市であり、今後も学校・家庭・地域が協力し合って子どもたちのための取組を進めていけば、子どもたちのより良い成長に繋がっていくと考えているため、この取組を引き続き行っていきたい旨の話が小倉寛恒教育委員会教育長よりあった。

（２）枕崎市「移住定住事業（住もう！まくらざき）」について

①枕崎市の概要

- ・人口：１９，２０８人（令和４年１０月１日現在）
- ・面積：７４．７８km²
- ・議員定数：１２人
- ・議員報酬：２７５，０００円（月額）
- ・政務調査費：平成１９年度から廃止
- ・枕崎市は、鹿児島県薩摩半島の南西部に位置し、南は広大な東シナ海に面している。その形状は、ほぼ五角形である。「台風銀座」と称される一方、古来「カツオ漁業」としえ栄え、かつお節製造は市内４３の加工場で１４，００６トンの節類を生産し、全国生産量の約５割を占めており、生産量は日本一である。また、本土最南端の始発・終着駅である枕崎駅がある。枕崎市は、鹿児島県内でも特に激しい人口減少、高齢化が進んでいる。日本一の鰹節や日本初の紅茶等の貴重な地域資源が活かしきれていないという課題を抱えている。

②視察内容

今回は、シェアオフィスやコワーキングスペースとしての機能を持つ「osoto 枕崎」にて説明を受け、その後、築１００年の古民家をリノベーションした宿兼レンタルスペースである「ゲストハウス KoToKoTo」を視察した。

「osoto 枕崎」では、担当職員より「住もう！まくらざき」の内容を中心に、枕崎市が抱える移住定住の課題に対して行っている取組（移住者住宅確保支援補助金や移住体験ツアー等）について説明を受けた。また、枕崎市地域おこし協力隊員の方より「関係人口・移住定住促進事業」と称して、企業連携や教育領域との関わり合い、今後の方針等について説明を受けた。

「ゲストハウス KoToKoTo」は、前述の通り、築１００年の古民家を改修しており、宿としての機能だけでなく、各種イベントやレンタルスペースとして一棟貸等、様々な用途で空間を提供している。視察時は宿としての機能に加えて、テナントとして地場産の野菜やお米を使った日替わりメニューを提供するカフェが入っていた。

枕崎市として、日本一や日本初という地域資源を今後しっかりと活かしていく取組の展開、また、将来的に交流人口や関係人口になりうる層への積極的なコンタクトをしていきたいとのことであった。

・ 鹿児島県始良市での行政視察の様子



・ 鹿児島県枕崎市での行政視察の様子



5. 所感

鹿児島県始良市の「モラリティ・インクルーブメント推進事業」については、時代の変化が著しい昨今において子どもたちの道徳性を育んでいく重要性に重点を置き、行政だけではなく、学校・家庭・地域を巻き込んだ形で取組を展開している点が大変目に付いた。始良市子育て基本条例に学校・家庭・地域、それぞれの役割と責任について明記されている点にも注目した。本市では、生きる力の育成という観点から、児童生徒の学力向上、体力向上、豊かな心を育む教育を行っているが、今回視察を行った「モラリティ・インクルーブメント推進事業」は豊かな心を育む教育の中で大変参考になるものと考えていると共に、まさに未来ある子どもたちのことを考えた事業であると思った。

鹿児島県枕崎市の「移住定住事業（住もう！まくらぎき）」については、鹿児島県内において人口減少、高齢化が特に激しい中において、その突破口を開く起爆剤として期待されているものである。また、今回の視察会場である「osoto 枕崎」は、シェアオフィスやコワーキングスペースとしての機能を持っており、あるアウトドアブランドが手がけていることに驚いた。シェアオフィスやコワーキングス

ペースの新しい形を実際に見ることができ、大変参考になるものであった。併設の「ゲストハウス KoToKoTo」は築100年の古民家をリノベーションした宿兼レンタルスペースであり、本市において空き家対策が喫緊の課題である中で、課題解決に向けた方向性を多少なりとも見出すことができたのではないかと感じている。

今回の視察において学んだことをしっかりと今後の議員活動に活かし、少しでも市政発展のために役立てていけるように努力をしていきたいと思う。また、実際に現地に足を運び、目で見、肌で感じ、考える重要性も再認識することができた。